

魔法のやかん！

「魔法のやかん」って聞いたことがありますか？中身はただの水道水なのに、倒れた選手の頭にかけて、たちまち息を吹き返すという「魔法のやかん」。激しいスポーツのラグビーでは、試合や練習中にタックルを受けるなどして転倒し脳震盪を起こすことがよくあります。しかし、その選手の頭にやかんの水をかけると、水をかけられた選手はたちまち立ち上がり、プレーに復帰する。そんな様子から「魔法のやかん」と呼ばれていました。



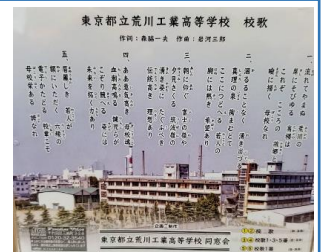
そんな「やかん」が荒工にもあるのか、顧問の先生に聞いてみました。答えは「ない！」、「そんな危険なことは、今はしていない」。そりゃ、そうですね。脳震盪で倒れた選手に水をぶっかけて起き上がらせるなんて、時代劇でよく見るお仕置きみたいですよね。加えて先生の話によると、昔は、交代にも制限があり、ケガを押して試合に出続けていた選手が多かったそうです。選手がケガをしないよう審判が試合をコントロールしていたのでしょーうが・・・。

でも今は、テクノロジーも選手を見守っています。テレビ審判員に加えて、あらゆる角度から試合を撮影する「ホークアイ（鷹の目）」が、いち早く選手の異常を見つけ出し、選手の体を守るために貢献をしています。テクノロジーはすごいですね。皆さんが私の年齢の時はどうなっていますかね。これまでの取組にテクノロジーが追加された社会について、想像するだけで楽しくなってきました。試合前に体調を判断できるAIが出てきたりするのでは？

そんなテクノロジーの社会でも、動力である電気を作り、送り、活用する技術を学んでいる皆さんの学びはやはりすごいです。もし、電気・電子・情報技術の一つでも欠けた社会を創造してみてください。街の明かりもスマホ、テレビ、冷蔵庫など全てのものが使えなくなりますね。どこかにしまわれた「魔法のやかん」を探し出さないといけなくなりますね。

荒工ブランド！

今週は、なかなか皆さんの授業の様子を見に行けませんでした。大切な応援団にお会いすることができました。皆さんの先輩の松本 浩(まつもと ひろし) 同窓会長です。なんと同窓会長は第1期の卒業生で、御年73歳で、今なお母校を大切に思い同窓会の活動をけん引してくれています。感謝ですね。



今回、同窓会長から二つお話を伺いました。一つ目は、例年、同窓会から教材提供として電線を提供いただき、皆さんの実習を支えてくれています。その思いは、電気工事士の資格を一人でも多くの生徒に取得してほしいとの思いからとのこと。 「荒工ブランド」とは、学校を思い、後輩を大切に思うことなのかもしれませんね。しっかりとつないでいきましょう。

もう一つは、同窓会作成のCDを頂戴しました。荒工の校歌は5番まであること知っていましたか。収録されていたのは5番までのフルメロディと皆さんがいつも合唱する1番、3番、5番のメロディ、そしてなぜか1番だけのメロディ。印象的だった4番を紹介します。



「ああ意気高き 母校魂(ぼこうこん) 血潮(ちしお) 高鳴る健児らが こそり競へる 姿には未来を拓く(ひらく) 力あり」

何だか勇気が出てきませんか。ぜひ、皆さんも「荒工ブランド」を背負ってくださいね。「母校栄(はえ) ある 誇りなれ」です。

1番だけのメロディを収録してある理由ですが、いつか荒工が甲子園に出て勝利したときに必要になるから作っておいたとのこと。野球部～！期待されているぞ！がんばれ！ちなみに、同窓会長の現役時代は卓球部だったそうです。(笑)

「高ぶれ！荒工生！」

「未来を創る！彩る！荒川工業」